



昭和61年5月の開業から、今年で30周年を迎えた「盛岡手づくり村」。北海道新幹線開業やいわて花巻空港と台湾を結ぶ定期チャーター便の運航決定といった背景のもと、観光客や教育旅行の誘致、地元客の利用促進にどう取り組んでいくか、運営責任者お二人に今後の展開について伺いました。



「盛岡手づくり村」のこれからを語る協盛岡手づくり村理事長佐々木俊幸さん（右）と（公財）盛岡地域地場産業振興センター事務局長武石幸久さん

特集

「盛岡手づくり村」開業30周年。

未来へ伝える手業の価値

「盛岡手づくり村」の設立経緯

「盛岡手づくり村」は、盛岡広域8市町（現在…盛岡市、滝沢市、岩手町、八幡平市、雫石町、葛巻町、紫波町、矢巾町）の産業振興を図ることを目的に建設されました。工房を集団化した「協同組合盛岡手づくり村」、地域の文化を象徴する施設として「南部曲り家」（盛岡市所有）、そしてそれらの総合的な運営管理を行う「公益財団法人盛岡地域地場産業振興センター（旧…地場産業振興センター）」の3組織が一体となった場として、オープン当時は全国から注目されたようです。中でも施設内で行う手づくり教室は来場者に人気が高く観光客や教育旅行の誘致に大きな役割を果たしました。

「当社を含む14工房が組合員となっている『協同組合盛岡手づくり村』は、盛岡地域に点在していた地場産業の工房が集まったものです。その際に導入した新しい概念は、『ここで行う手仕事やその技を見て、職人と触れあって、実際の製作体験ができる場である』ということ。全国に類似した施設はありましたが、これほど徹底した施設はなかったよう

です」。

（協盛岡手づくり村の理事長を務める佐々木俊幸さん／有盛岡せんべい店代表取締役は設立当時を振り返ります。

時代と共に変化したもの 変わらないもの

30年の間には全国的な景気低迷期もありましたが、同施設の位置づけや役割はどう変化したのでしょうか。（公財）盛岡地域地場産業振興センター事務局長の武石幸久さんはこう話します。

「オープンした頃に比べ産学官連携や新事業の創出や支援、経営指導や人材育成など、行政サイドの支援事業の形態も充実し、大きく広がりました。30年前は盛岡地域の地場産業振興という壮大なテーマを掲げてスタートしましたが、今は文字通り『地元の手仕事産業の振興を担う』ことに重心が移ってきています」。

この地域ならではの職人の手仕事をみせること、そして技を維持、継承、発展させることが「盛岡手づくり村」最大のサービスだと武石さんは話します。目の前で行われる様々な技術、職人の真剣な表情や手業を



工房まつりで振る舞うジャンボせんべいは同施設の目玉企画

見ていただくことが何よりのおもてなしだと考えます。5月から9月はインバウンドや修学旅行や教育旅行者でにぎわいますが、手軽に体験できる『南部せんべいの手焼き体験』は開業当時から変わらぬ人気を維持してきました。

手軽に体験できる 非日常の時間に価値がある

「焼きたてせんべいをその場で作って食べるという体験企画は、開館当初から変わらず続けてきたこと。南部鉄器を使って、この空間で作ることが大事なのだと思います。まわりに鉄器や竹細工などの工房群があつて体験コースがある。そうした世界観があるからこそ、手焼き体験にも並んでくれると思つています」と佐々木さん。

せんべい焼きをはじめ、陶器の絵

付け、竹細工、冷麺づくりなど職人と触れ合つて体験できる企画は11種。修学旅行生の滞在時間は1時間半から2時間程度が多く、30分程度で体験し、その後に買い物をして少し休んで帰るといふ流れが一般的です。せんべい焼き体験の場合は1日あたりの体験者数が年々更新されており、今年はずでに650名を超えているのだとか。

「JRを利用するお客様は、盛岡駅から同施設までの経費がバスで一人往復1140円かかります。バス代をかけてくるだけの価値がある施設にしないでほしい。当社の場合、お待たせせずに満足いく時間を過ごしていただくことが大切だと考えます」。

小岩井農場、繋・鶯宿温泉など近隣施設との連携もさらに深め、さまざまなニーズの旅行者に対応してい



修学旅行生で賑わう体験工房

くためには、佐々木さんの言うように受け入れ体制をどう整えていくかが鍵になってきます。

地元の子供たちも大人も 手仕事の技を知り、学べる場に

一方で地元客へのアプローチも重要であり、「盛岡手作り村」は子供たちが地域文化と触れ合える場となるべく施設活用の幅を広げていく考えです。比較的施設をゆつたりと使える冬場をうまく利用して、地元の子供たちが地域の文化や手仕事の技を学べるしくみづくりに力を入れたいと二人は口を揃えます。

そのためにはどうやって情報を発信していくのか。SNSのような新しい形の情報発信ツールもうまく利用した話題づくりも必要です。またキャリア教育の情報発信ツール、学校教育のみならず子ども会や自治会などの地域コミュニティへのアプローチも重要です。

「ここにはこの地域から生まれた手仕事の技が集まっています。手づくり村での職人との触れ合いや体験は子供たちにとって職場体験の一つにもなります。文部科学省が進めるキャリア教育の点からも、手づくりの喜びを実感できる手づくり教室を知っていただき、是非利用してください」と武石さんは話します。

この春、30周年を機に少しリニューアルした「盛岡手づくり村」。駐車場南側には緑地帯を活用した



同施設内の南部曲がり家は、産業文化を未来へつなぐ大切な財産です

「森の小径（こみち）」がお目見えし、屋外でコーヒーやパンを楽しめるカフェも晴れた日などには登場します。展示室の2階には各工房の職人を紹介するスペースを設けています。しばらく同施設を訪れたことがない方も、もう一度訪ねてみると新たな発見があるのではないのでしょうか。

